教育広報

かけはし

第88号　平成21年12月16日発行
発行／千代田区教育委員会　編集／こども・教育部こども総務課
代表電話 3264－2111　http://www.city.chiyoda.lg.jp/

10月23日「こどもの花ばたけ」
日比谷公園にて　麹町保育園・四番町保育園

主な記事

☆ 教育委員・教育長就任の挨拶
☆ 中高生等の居場所づくり事業
☆ 「東京都教育の日」ポスター部門で受賞
☆ 子どもの権利条約
☆ 教育随想

写真：千代田区教育委員会
千代田区広報広聴課

教育委員就任の挨拶

教育委員　古川　紀子
（ふるかわ　みちこ）

この度、保護者委員として千代田区教育委員会委員に就任することになりました。

ただ今、小学生の子どもたちの子育て中であり、学校教育を肌で感じている中ではございますが、もう一つ大きな括りの教育行政に携わっていくということで、その職責の重さを痛感しているところでございます。

また、様々な経歴をお持ちの先輩委員の皆様の中で、経験の浅い私で戸惑うところもございますが、保護者の視点から、見て感じたことなどをお伝えできるように誠心誠意努めてまいりたいと思っております。

この千代田で私も生まれ育ち、だんだんと変わっていく町並みの中、小さかった頃楽しみにしていたお祭りや地域行事に、今では子どもと一緒に参加させていただいております。子どもが園児の時にはPTA役員に就任しておりまして、その活動を通じ、子どもたちが本当に多くの方々に見守られ、育てられていることを改めて実感できた貴重な経験をさせていただきました。

子どもたちの健やかな成長を願い、その目的に向かって保護者の皆様・地域の皆様・学校をはじめとする教育関係の皆様方と、相互に良いコミュニケーションがとられていくことを願い、微力ながらもお役に立てるよう務めてまいりたいと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

教育長就任の挨拶

教育長　山﨑　芳明
（やまざき　よしあき）

この度、千代田区教育委員会教育長に就任いたしました山﨑芳明でございます。

私はこれまで、千代田区役所において、まちづくりや都市計画、環境といった区民の皆様の生活の基盤に関する分野を多く経験して参りました。また部長という立場で、延べ5年間にわたり区全体にかかる企画や総務関係の仕事をさせて頂きましたが、教育行政や子育ての仕事に直接携わった経験はありませんでした。

しかしながら、子育てや教育につきましては、夫婦で3人の子どもを育て上げた経験や、私のほか子ども全員が小学校から高等学校まで公立学校にお世話になったことなどを通して、いろいろな思いを抱いておりました。

このように私は教育や子育ての分野が特に専門というわけではありませんが、これまで永年培って参りました様々な行政経験等を存分に生かし、教育委員会が直面している多くの課題に積極的に取り組んでいきたいと考えております。

つきましては、区民の皆様や現場の先生方等の声にも十分耳を傾けつつ、他の教育委員の皆様と良くご相談させて頂きながら、教育長としての職責を果たして参りたいと考えております。どうぞ、宜しくお願いいたします。

中高生等の居場所づくり事業
義足のハイジャンパー　鈴木　徹 氏 講演会を開催

千代田区の児童館・児童センターでは、中高生世代の育成をバックアップするため、中高生の居場所づくり事業に力を入れています。今回は、7月末のフットサル講習会に続き、9月5日（土）、西神田児童センターにて、“義足のハイジャンパー”鈴木徹さんをお迎えして講演会を行いました。

鈴木徹さんは、18歳の時に交通事故で右ひざ下を切断。義足のリハビリをしたのち、走り高跳びを始め、陸上競技を開始してから3ヶ月で、シドニーパラリンピックにて日本人初の走り高跳び選手として出場を果たします。アテネパラリンピックで6位入賞、その後も活躍し、2006年のジャパンパラリンピックにて、2mジャンパーとなりました。

当日は、インフルエンザの流行等の影響もあり、参加者は予定より少なめでしたが、小学生から大人の方まで50名ほど集まり、鈴木先生の話に耳を傾けました。

小さいころは人見知りだったそうです。ハンドボールに出会い高校生のときは全国レベルの活躍をしましたが、大学進学も決まっていた卒業間近に交通事故をおこし、右足を膝上で切断してしまったのです。義足をつけハイジャンパーとして名を馳せるまでを淡々と語る口調から、片足を失ってもなお、前をみて努力し挑戦してきた力強さと逞しさが伝わり、強く胸を打ちます。

義足でも日常生活ではさほど不自由を感じませんが、平衡の感覚が取りにくく、家の中では義足を付けていないこと、横着をしてずり足で進むのを2歳のお子さんが真似をした話など、ご家庭でのエピソードも交えてお話しいただきました。

いつも使用している義足を何足か演台に並べて説明されましたが、当初その義足を恐る恐る見ていた小学生たちが、話を聞くうちに義足を身近に感じてきたようで、違和感なくなでたり触ったりする姿が見られました。

また、質問コーナーでは、保護者の方からの『事故に遭ったときお母さんはなんと声を掛けたのですか？』との質問に、「やってしまったことだからしょうがない。これから頑張りなさい」と思いがけない言葉だったそうです。しかし、ご自身その言葉をきかっけに、『違う道で自分のやれることをやって行こう』と思い、心に決めたそうです。

その後、講演会に参加した子ども達とかけっこをしたり、中高生とバスケのシュートを競ったり、時間があっという間に過ぎてしまいました。

参加者からは、「良いお話が聞けて良かった」「ぼくもたとえ何かあったとしても、前向きに生きて行こう」などとの言葉も聞かれ、語られた言葉の端々にある「何事にも感謝する心を持つ」「自らの可能性をあきらめない」とのメッセージは、参加者の心に強く響いたのではないでしょうか。

ともすればお座なりになりがちなこうした気持ちを、再認識させてくれた講演会でした。

平成21年度「東京都教育の日」
ポスター部門で見事受賞!

東京都教育委員会では、「東京都教育の日」に合わせて、体を動かし、運動に親しみ、望ましい生活習慣を確立することの大切さ等を表現した「標語」と「ポスター」を募集しました。

その多数応募のあった中から、

☆「ポスター部門小学生の部　最優秀賞」に、**昌平小学校4年の門田 美咲（もんでん みさき）**さん
☆「ポスター部門小学生の部　　優秀賞」に、**昌平小学校2年の大林 想和（おおばやし そお）**さん
☆「ポスター部門中学生の部　　優秀賞」に、**麹町中学校3年の満処 裕貴（まんどころ ゆうき）**さん

の3人が、見事受賞されました。以下にこの3人の作品を紹介いたします。

最優秀賞

昌平小学校4年の
門田　美咲さん

“みんながこのポスターを見て「よし、運動するぞ」という気持ちになってもらえるように願いをこめてかきました。わたしもみんなに負けないように体をきたえたいと思います”

優秀賞

昌平小学校2年の **大林　想和**さん

“ぼくは将来、野球の選手になりたいです。「晴れときどきぶた」みたいに、ぼくがバッターで絵のように本当になったらいいなと思ってかきました”

優秀賞

麹町中学校3年の
満処　裕貴さん

“テーマである「体力向上」のおかげで、私自身の生活も見直す事が出来ました。忙しい日々の中でも、大切な身体の為にバランスの良い生活をーと言う思いを込めてこのポスターを描きました”

学校活動支援団体等に対する感謝状贈呈団体に

「ワーク・わく・クラブ」（麹町小）が選ばれました

東京都教育委員会では、学校活動の支援及び地域における児童・生徒の育成活動を長期間にわたり継続している団体及び個人に対して、今後の活動継続を奨励することを目的に、感謝状を贈呈しており、今年度贈呈が決まった79団体等の1つにワーク・わく・クラブが選ばれました。

ワーク・わく・クラブは、平成16年度（2004年）5月、当時の麹町小角田校長らの依頼を受け、数人の保護者で立ち上げた土曜事業の応援チームで、地域・千代田区にある大学の学生さんたちも手伝って、成り立っています。

☆ 講座ごとに募集をかけて行う、ワークショップの企画・実行をしています。

☆ お手伝いは、地域消防団・NPO法人コドモ・ワカモノまちingと連携し、そこに加盟している千代田区の学生ボランティア団体の助けを借りて成り立っています。

☆ 各所からの達人を講師に招いたり、学校では味わえないじっくり型を目指しています。

☆ ぼうさい探検隊・バードウォッチング（巣箱かけから巣箱チェックまで4回シリーズ）、けん玉大会・季節を味わうお茶会は恒例になっています。

～子どもたちに何かを伝えたい、ワークショップを行いたい方いつでもお尋ねください～

work_waku@hotmail.co.jp

麹町地域ぼうさい探検隊2009の皆さん

神田保育園は仮園舎に移転しました。

神田保育園（神田淡路町2－15）は、淡路町二丁目西部地区第一種市街地再開発事業により、旧神田消防署跡地（神田淡路町2－12）に仮園舎を建設し、平成21年9月24日から仮園舎での保育を開始しました。

神田保育園仮園舎・全景

仮園舎は、鉄筋コンクリート5階建・延床面積1,354㎡です。

1階にピロティ（園庭）と事務室、調理室があり、2階に0・1歳児室、3階に2・3歳児室と遊戯室、4階に4・5歳児室と遊戯室があります。5階は屋上で園庭となっています。

なお、新本園舎については、平成24年度中の完成を目指しています。

栄養満点！おいしい給食タイム（1歳児室）

3～5歳児のみんな集まれ！運動会ごっこ（4階遊戯室）

子どもの権利条約について

本年は、日本政府が「子どもの権利条約」（児童の権利に関する条約）を※批准して15年目の節目にあたります。

今回「子どもの権利条約」の内容の一部を紹介いたします。

教育委員会では、この条約の趣旨の尊重を、教育目標を実現するための基本方針のひとつに掲げ、諸活動に取り組んでいます。

（以下、ユニセフホームページより抜粋 http://www.unicef.or.jp/index.html）

子どもの権利条約とは？

「子どもの権利条約（児童の権利に関する条約）」って聞いたことがありますか？　世界中のすべての子どもたちがもっている“権利”について定めた条約です。戦争に巻きこまれてしまったり、防げる病気で命をうしなってしまったり、つらい仕事で1日が終わってしまったり…世界には厳しいくらしをしている子どもたちがいます。

「子どもの権利条約」は、そんな子どもたちをはじめ、世界中の子どもたちの強い味方です。ユニセフを始め各国でもこの条約に書かれた子どもたちの権利を守るために活動しています。

「子どもの権利条約」ができるまで

1989年「子どもの権利条約」は国連で採択され、1990年国際条約として※発効しました。日本は1994年4月22日に※批准し、1994年5月22日に発効しました。

1948年	「世界人権宣言」 すべての人は平等であり、それぞれが同じ権利をもつとした宣言
1959年	「児童の権利宣言」 子どもは子どもとしての権利をそれぞれもつとした宣言 このときから、宣言だけでなく実際に効力のあるものができないかと考えられはじめた
1978年	「子どもの権利条約」の草案（はじめの具体的な案）がポーランド政府から提出される
1979年	「国際児童年」 「児童の権利宣言」20周年。世界中の人が子どもの権利について考える機会になった。 国連人権委員会の中に「子どもの権利条約」の作業部会が設置された
1989年	「子どもの権利条約」国連で採択 ユニセフや多くの国の10年にわたる努力がみのる
1990年	「子どもの権利条約」が国際条約として発効
2006年	12月現在**193の国と地域**がこの条約を締結

用語解説

※**批准**：条約をみとめて実行します、という国の最終の確認、同意のてつづき

※**発効**：条約が効力をもつこと。発効の日から条約の内容を守らなければなりません

「子どもの権利条約」が定めている権利

この条約は大きくわけて次の４つの子どもの権利を守るように定めています。そして、子どもにとっていちばんいいことを実現しようとうたっています。

1. 生きる権利

防げる病気などで命をうばわれないこと。病気やけがをしたら治療を受けられることなど。

2. 育つ権利

教育を受け、休んだり遊んだりできること。考えや信じることの自由が守られ、自分らしく育つことができることなど。

3. 守られる権利

あらゆる種類の虐待（ぎゃくたい）や搾取（さくしゅ）などから守られること。
障害のある子どもや少数民族の子どもなどはとくに守られることなど。

4. 参加する権利

自由に意見をあらわしたり、集まってグループをつくったり、自由な活動をおこなったりできることなど。

（仮称）富士見こども施設の愛称が「富士見みらい館」に！

完 成 予 想 図

（仮称）富士見こども施設は、富士見小学校・幼稚園の改築にあたり、地域の皆さんにも開放していくことを前提に、「小学校」「こども園」「児童健全育成機能」を一体的に運用する『総合こども施設』として整備を進めています。

この施設について、皆さんから施設全体を現す親しみやすい愛称が欲しいとのご要望があり、地域の方々や子どもたちから愛称を募集し、その中から「富士見みらい館」という名を、愛称として決定いたしました。

「富士見みらい館」は、平成22年4月の開設に向け、現在着々と工事が進んでいます。なお、施設の詳細につきましては、追って詳しくお知らせする予定ですが、「富士見みらい館」の愛称のとおり、「子どもたちの成長と、輝かしい未来を」育むような施設にしていきます。

また、富士見みらい館の5階に開設される「児童健全育成機能」につきましても、富士見児童館の利用者等から募集し、名称を「富士見わんぱくひろば」とすることに決定いたしました。富士見児童館に替って「地域の元気あふれる子どもや大人の集まるところ」として、多くの方々に親しまれる施設をめざします。

担当　◇「富士見みらい館」に関すること……こども施設課
　　◇「富士見わんぱくひろば」に関すること……児童・家庭支援センター

教育随想

子供の頃愛読していた幼年倶楽部という小学校低学年を対象にした雑誌に次のような話が載っていた。

海の浅瀬にさざえがいて、自分の壺の中でのんびり昼寝をしていた。すると辺りが騒がしくなったので目を覚まし壺の蓋を開けて外を見ると、通りかかった魚や貝が「引き潮になってきたから沖へ移動した方がよい」と忠告してくれた。しかし、さざえは「皆慌てているが僕にはこんな立派な家（壺）があるから、この中に入っていれば安全だ。もう一眠りしよう」とまた眠ってしまった。そして、ぐっすり眠って目を覚ますと、どうも辺りの様子がおかしい。そこで壺の蓋を開けて外を見ると、そのさざえは魚屋の店頭に置かれていた。

ざっとこんな話である。これに何か教訓めいたことが付言してあったかどうか。何しろ今から七十年も前に読んだことだから記憶も定かでない。しかし、今この話を思い出してみると、実に含蓄に富む話だ。自分の壺の中に閉じ籠もって、引き潮という大きな潮流の変化に関心を持たなかったさざえは、壺の中で安眠を貪っているうちに魚屋の店頭で売り物にされていたのだが、似たようなことは人間社会でよくあることだ。長年の鎖国の中で太平楽をきめこんでいた日本は、黒船の到来で目を覚まされ上を下への大騒ぎとなった。第二次大戦中もほぼ鎖国状態で、敗戦により進駐軍が入って来て、壺の中での独り善がりの考え方に一撃を加えられた。しかし、第一の開国期である明治維新のとき、日本が一国の独立を保ち、近代化に目覚めて急速に近代国家へ転身できたのは、江戸時代の教育水準の高さによるものだろう。第二の開国期に、敗戦後の廃墟の中から驚異的復興を為し遂げたのも明治以来の教育水準の高さによるところだと言えよう。

日本はこのように外来文明を取り入れて、これを自家薬籠中（じかやくろうちゅう）の物にしてしまう能力に勝れているのだが、一方で前述のさざえのように自分の壺に閉じ籠もって外界の動きを見ず、内向きの論理でしか物を考えない例はあちこちに見られるのではないか。郷土の文化、日本の文化を大切にすることを忘れてはならないが、異文化を理解する心がないとグローバル化の時代を生き抜くのは難しい。七十年前、幼い子供向けの雑誌に掲載された「さざえの話」の意味を日本国民がよく咀嚼（そしゃく）していれば、歴史は変わっていたかもしれない。

千代田区教育委員会
教育委員　　福澤　武